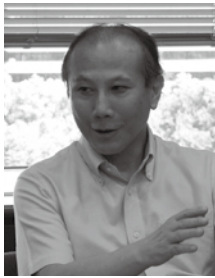


# 出井先生、お疲れ様でした

## ～出井直樹前日弁連事務総長にインタビュー～



出井 直樹 (40期)

●Naoki Idei  
当会会員・前日弁連事務総長

〈略歴〉  
2006年度～2008年度 日弁連事務次長  
2011年度 当会副会長  
2016年度～2017年度 日弁連事務総長

**編集部** 出井先生、2年間の日弁連事務総長の重責を果たされ、お疲れ様でした。まず、日弁連の事務総長がどんなお仕事をされるのか教えていただけますか？

**出井** 事務総長は、日弁連会長、副会長含む役員を補佐する事務方のトップという役割です。私は、中本和洋日弁連会長と任期をとみにしたので、中本執行部の2年間の任期を今年3月末に終えました。事務総長の選任は、理事会での承認は必要ですが、日弁連の組織の中で、会長が唯一自由に推薦できる人事です。主な仕事は、会長を補佐し、組織内部の連絡調整業務を行うことです。また、対外的には、最高裁、法務省など関係諸機関との調整や交渉等に関わることも多いです。

**編集部** 任期を終えたときのご感想は？

**出井** 今年の3月末で任期を終えましたが、任期満了日も、憲法、法曹養成などの執行部の会議が立て続けに入っており、息つく暇もなく終わってしまったなあという感想です。

**編集部** 在任中の日弁連のトピックについて教えていただけますか？

**出井** 就任早々、2016年4月、熊本地震が発生しました。当日、災害本部を立ち上げ、緊張が続く日々を過ごしました。熊本は私の郷

里で、震災翌日午前まで両親と連絡が取れず安否も分からなかったような状況でした。私は、2011年4月から2012年3月まで当会の副会長を務めましたが、そのときも就任直前に起こった東日本大震災と原発事故対応に追われていました。そんなこともあり、震災復興に対する思いは人一倍強く、今回の震災にも全力で取り組みました。

次に、2016年10月に行われた福井の人権大会において、「死刑制度の廃止を含む刑罰制度全体の改革を求める宣言」という踏み込んだ宣言を採択したときのことは印象に残っています。当会の副会長であった当時、高松の人権大会での死刑廃止について全社会的議論を呼びかける宣言が採択されたことを受け、その後、5年を経て今度は事務総長のときに今回の宣言が採択されたものです。ご承知のとおり、死刑制度については、賛成反対を含め様々な議論があり、日弁連では、この宣言に基づき、2020年までに死刑廃止の実現を目指すため、本部を設置し、多くの弁護士会を訪問するなどして意見交換などを行っています。

そして、何よりも、司法修習生に対する経済的支援の課題に取り組んだ結果、2017年4月に新たな修習給付金を導入する裁判所法の改正が成立し、同年12月の71期司法修習生から適用されたことです。これは、ビギナーズ・ネット等の活動や多数の国会議員の賛同も獲得するなど、日弁連として、様々な団体に働きかけを行った結果、2016年12月19日、法曹三者の合意により実現されたものです。新しい給付型経済的支援が実現したことにより、法曹志望者減に一定の歯止めをかけることが

期待され、そのほかの制度改革も推進できる環境が整いました。事務総長として官僚や政治家の方も含め、色々な方にお会いし、苦しみながら実現したことで、感慨深いものです。

また、FATF第4次対日相互審査への対応や、不祥事対策等弁護士自治関連の課題が挙げられます。2017年3月の臨時総会で、依頼者見舞金制度の創設及び預り金等の取扱いに関する規程改正が承認されました。FATF対応については、2017年12月の臨時総会で、「依頼者の本人特定事項の確認及び記録保存等に関する規程」を一部改正しました。具体的には、依頼者の本人特定事項の確認、記録保存等の履行状況について、所属する弁護士会に年次報告書を提出することを会員に義務付けました。依頼者見舞金制度については、当会の早稲田祐美子元会長（2016年度日弁連副会長）が担当副会長、FATF対応については、当会の伊東卓前会長（2017年度日弁連副会長）が担当副会長として、御二方にはご尽力いただきました。この場を借りて御礼申し上げたいと思います。

これ以外にもたくさんありますが、任期中に関わった諸問題については、総括的には『自由と正義』2018年5月号に掲載されていますので、ご興味のある方は、お読みいただければと思います。

**編集部** ありがとうございます。任期中に実現はできなかったが、日弁連が今後取り組んでいくテーマとしてはどのようなものがありますか？

**出井** 中本会長は、民事司法改革を掲げて会長になりました。任期中においては、修習給付金、弁護士自治の問題に時間をとられながらも、民事司法改革の課題も並行して取り組みを進めていましたが、今後は、それを継続し、より力を入れていくことが求められていると思います。司法制度改革によって、法テラス、裁判員制度の創設など制度の拡充が進みましたが、民事司法分野は、弁護士費用保険等を除いて改革が置き去りにされている部分があります。裁判のIT化を進めるとともに、国際仲裁機能の強化を進め、利用し

やすく頼りがいのある民事司法の充実を目指して、市民のための民事司法改革を進めていかななくてはなりません。

次に、弁護士の業務拡大です。現会長の菊地裕太郎先生も長年取り組んできたテーマです。昔は、弁護士になれば、何とか自分の生活と事務職を成り立たせていけた時代でしたが、最近はそのような業務基盤のない若手も増えてきており、日弁連が業務基盤をしっかりサポートしていく必要があります。先ほど述べた民事司法改革はコインの裏表であり、市民目線での司法利用が増えれば弁護士の仕事拡大にもつながると思います。

更に、法曹養成の問題も一層力を注ぐべき問題です。修習給付金の創設については、法曹志望者回復へのいい影響が期待されますし、その部分では一定の成果があったと思います。法科大学院については、2018年度までは集中改革期間とされています。現在政府で議論されている法学部と法科大学院の連携等、日弁連としても、しっかり検討して意見を述べていくべき課題だと思います。

**編集部** 事務総長をされて、そのお仕事のやりがいほどのようなところで感じられましたか？

**出井** 日常的な弁護士業務では個別の依頼者のための仕事がほとんどだと思いますが、弁護士会会務は、弁護士会員全体の利益を考え、更に社会に目を向けて活動をすることであり、普通では体験できないダイナミックな仕事であることがやりがいだと感じました。当会の副会長時代以上に、委員会の委員の



執行部の会議の様子

方々をはじめ、多くの先生方と知り合い、同じ課題について仕事を進めることができました。これは普通の弁護士ではなかなか経験できないことだと思います。

**編集部** 逆に苦勞されたことはありますか？

**出井** 事務総長としては、会の外との調整に非常に気を遣いました。色々な団体との軋れきが生じたとき、致命的なハレーションにならないように対応するのが事務総長の役目です。具体的には、法務省、最高裁等との折衝・調整です。副会長、事務次長が通常のルートですが、場合によっては事務総長が交渉に乗り出さなければならないことがありました。

**編集部** 裏話もたくさんあったと思いますが…？

**出井** 色んなことがありました。秘密にさせてください（笑）。

**編集部** ところで、日弁連から見た当会は、どのように映りましたか？

**出井** 日弁連は、日本の弁護士会を代表する組織として対外的な関係がより意識されますし、重厚な官僚組織でもあります。その点、当会を含む単位会は、会員や市民と直に接し、その要望、クレームをダイレクトに受け止めるというところで性質が異なると思います。

また、日弁連と単位会の間で情報ギャップがかなりあると感じました。私としては、日弁連から多くの情報を発信しているつもりだったのですが、当会ではあまり知られていなかったこともありました。当会の担当委員会との連携をしっかりとっていく必要があると感じました。

あくまでも私から見た印象になりますが、当会とほかの単位会との印象の違いを申し上げると、例えば、日弁連の理事会では、出身母体の意見を反映させて意見を述べている単位会も多いのですが、当会の理事は、いい意味で出身母体の拘束なく自由に発言しています。「自由闊達」というのが当会のイメージとされていますが、他会と比べてもそうだと感じました。

**編集部** 当会の会員は、日弁連でも活躍していますか？



**出井** 当会の委員は色々な委員会で活躍し、それぞれ目立っているという印象です。個の力の強さを発揮していると感じました。

また、事務総長に近いところでは、当会出身の事務次長として、私の任期中には、戸田綾美先生、神田安積先生、高崎玄太郎先生、小町谷育子先生がおられました。皆さん、次長として八面六臂の大活躍をされていました。大変心強かったです。次長の皆さんは、本当に多忙で、総次長室には、職員次長と事務総長しかいなかった場面も多かったように記憶しています。

**編集部** 若手会員に向けてのメッセージをお願いします。

**出井** 率直に言って、若手から見て、日弁連はかなり遠い存在なのではないかと思えます。期が浅いうちは、事件に打ち込むことで手一杯になってしまうことは仕方がないと思いますが、ある一定の経験を積んだ時点で、会全体、社会全体に関心をもってほしいと思います。

ロースクール世代が増えてきていて、法曹の分化が生じ、弁護士自治を維持することの難しさを感じるようになっていきます。まずは、自分の仕事の基盤を固めるとともに、会務活動にも目を向け、自分の世界を広げることが必要だと思います。少なくとも会務活動等を理解し、できれば少しでもいいので参加してもらえればと願っています。